

ボブベックのやさしい投資信託

第39回 ファンドの選び方 その1

(9) ファンドの選び方

(9-A) グラフの見方

今回からは、ファンドを選択する際の注意点について、勉強していきましょう。まずはグラフの見方についてです。運用会社から提供される資料には、ファンドの過去の運用成果として、基準価額の推移のグラフが紹介されています。しかし、このグラフ。一目で分かる優れたものなのですが、逆に大きな誤解を招く事も多々あるのです。

最初に下のグラフを見てください。



このグラフを見ると、ファンドは基準価額の変動が小さく、安定しているファンドだと感じるのではないのでしょうか。

では、下のグラフはどうでしょうか？



このグラフを見ると、ファンドは随分、基準価額の変動が大きくリスクが高いファンドのように見えますね。でも、この二つのグラフは、同じファンドの同じ期間の基準価額の推移をグラフにしたものなの

です。ただ、目盛の取り方を変えただけです。目盛を良く見てみましょう。二つのグラフとも、10,000円で基準価額がスタートし、その後、7,000円強まで基準価額が下落し、その後10,000円まで回復しているのが分かると思います。

では次に、下のグラフを見てください。



このグラフを見ると、右肩上がりの随分好調な運用成績を誇っているファンドのように思えます。しかし、このグラフも、最初の二つのグラフと同じファンドの基準価額の推移なのです。ただし、今度は、期間を変えてみました。直近9ヶ月の基準価額の推移を抜き出すとこのようなグラフになったのです。

つまり、ファンドの基準価額の推移をグラフにしたものを、ただ眺めるだけでは、そのファンドの良し悪しは分からないという事なのです。少なくとも、基準価額の下落は何%だったのか、基準価額の上昇は何割だったのかを、計算してみないと、他のファンドとの比較は出来ないのです。

更に、ファンドの運用期間中、株式がどのように推移していたのかも調べる必要があります。以下のグラフのように、日経平均やTOPIXなどのインデックスと比べて始めて、そのファンドの優劣が理解できるのです。

